

日興クオンツ・アクティブ・ジャパン

追加型投信／国内／株式

交付運用報告書

第16期(決算日2016年2月15日)

作成対象期間(2015年2月17日～2016年2月15日)

第16期末(2016年2月15日)	
基準価額	10,448円
純資産総額	3,325百万円
第16期	
騰落率	△ 9.5%
分配金(税込み)合計	100円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興クオンツ・アクティブ・ジャパン」は、2016年2月15日に第16期の決算を行いました。

当ファンドは、主として、わが国の金融商品取引所第一部上場の株式に実質的な投資を行ない、東証株価指数の動きを上回る投資成果の獲得をめざして運用を行なってきました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

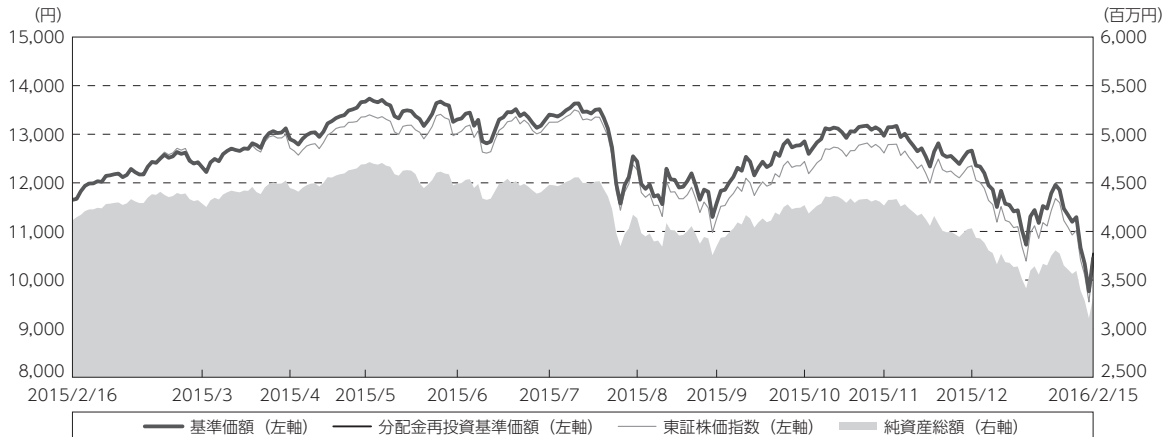
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2015年2月17日～2016年2月15日)



期首：11,650円

期末：10,448円 (既払分配金(税込み)：100円)

騰落率：△ 9.5% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額および東証株価指数は、期首(2015年2月16日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 東証株価指数は当ファンドのベンチマークです。

○基準価額の推移

期首11,650円の基準価額は、期末に10,448円(分配後)となり、分配金を加味した騰落率は△9.5%となりました。

○基準価額の変動要因

当ファンドは、主として、わが国の金融商品取引所第一部上場の株式に実質的な投資を行ない、東証株価指数の動きを上回る投資成果の獲得をめざして運用を行なっております。当期中における基準価額の変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・欧州や一部の新興国において景気支援などを目的とする金融緩和策が進展したこと。
- ・企業による株主還元策強化の動きが活発化したこと。
- ・環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)交渉の大筋合意による国内経済に対する好影響への期待が高

まったこと。

- ・日銀によるマイナス金利政策導入の決定が一時的に好感されたこと。

<値下がり要因>

- ・原油安や中国の人民元安・株安の進行などを受けて世界経済の先行き不透明感が強まったこと。
- ・北朝鮮による核実験実施の発表や、中東諸国間の関係悪化など地政学的リスクが高まったこと。
- ・投資家によるリスク回避姿勢の強まりを背景に、円高／アメリカドル安が進行したこと。

1万口当たりの費用明細

(2015年2月17日～2016年2月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	164	1.292	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(82)	(0.646)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(75)	(0.592)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(7)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	2	0.018	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(2)	(0.013)	
(先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	(1)	(0.005)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.005	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	167	1.315	
期中の平均基準価額は、12,670円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

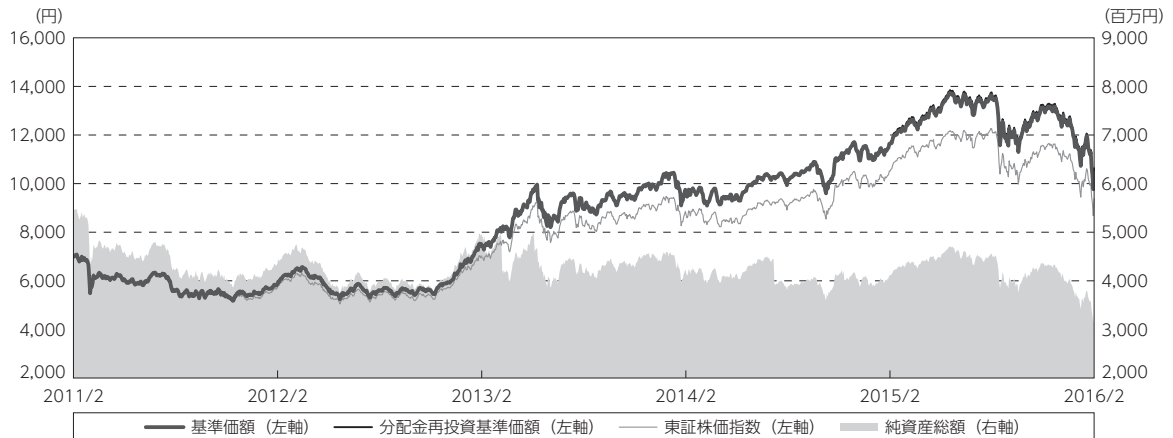
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2011年2月15日～2016年2月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額および東証株価指数は、2011年2月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2011年2月15日 決算日	2012年2月15日 決算日	2013年2月15日 決算日	2014年2月17日 決算日	2015年2月16日 決算日	2016年2月15日 決算日
基準価額 (円)	6,984	5,969	7,280	9,505	11,650	10,448
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	100	100
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 14.5	22.0	30.6	23.6	△ 9.5
東証株価指数騰落率 (%)	—	△ 16.6	17.4	26.5	22.4	△ 11.5
純資産総額 (百万円)	5,441	4,437	4,813	4,130	4,114	3,325

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) 東証株価指数は当ファンドのベンチマークです。

投資環境

(2015年2月17日～2016年2月15日)

(株式市況)

国内株式市場では、東証株価指数（ＴＯＰＩＸ）は期首と比べて下落しました。期首から2015年5月にかけては、欧州や一部の新興国における金融緩和策の進展、国内景気の回復期待や企業による株主還元策強化の動き、円安／アメリカドル高の進行などを受けて、ＴＯＰＩＸは上昇しました。6月上旬から8月中旬にかけては、ギリシャの支援協議を巡る不透明感などを背景に、ＴＯＰＩＸはもみ合いの展開となりました。8月下旬から9月下旬にかけては、中国の成長鈍化や原油などの資源価格の下落を背景とした世界的な景気減速への懸念、円高／アメリカドル安への動きなどからＴＯＰＩＸは急落しました。10月から11月にかけては、ＴＰＰ交渉の大筋合意による国内経済に対する好影響への期待や、日銀や欧州中央銀行（ＥＣＢ）による追加の金融緩和期待、中国における利下げなどの追加金融緩和策の実施などを背景に、ＴＯＰＩＸは上昇しました。12月上旬から期末にかけては、欧州における追加金融緩和への期待の高まりや、2016年1月末の日銀によるマイナス金利政策の導入決定などが好感されて、株価が上昇する局面があったものの、原油安や中国の人民元安・株安の進行を受けた世界経済の先行き不透明感や、北朝鮮などにおける地政学的リスクの高まり、投資家によるリスク回避姿勢の強まりを背景とした円高／アメリカドル高の進行などから、ＴＯＰＩＸは下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2015年2月17日～2016年2月15日)

(当ファンド)

当ファンドは、「日興クオンツ・アクティブ・ジャパン・マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

(日興クオンツ・アクティブ・ジャパン・マザーファンド)

原則として「日興アセットマネジメント」独自の定量モデルを利用し、ＰＥＲ（株価収益率）またはＰＢＲ（株価純資産倍率）などのバリュエーション（株価評価）指標からみて割安な状態にある銘柄、業績改善の期待される銘柄や業績見通しが上向いた銘柄などに着目し、最適化モデルにより、リスク（企業規模・業種など）をコントロールしながらポートフォリオを構築しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2015年2月17日～2016年2月15日)

期中における基準価額は、9.5%の値下がりとなり、ベンチマークである「東証株価指数」の下落率11.5%を概ね2.0%上回ることとなりました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

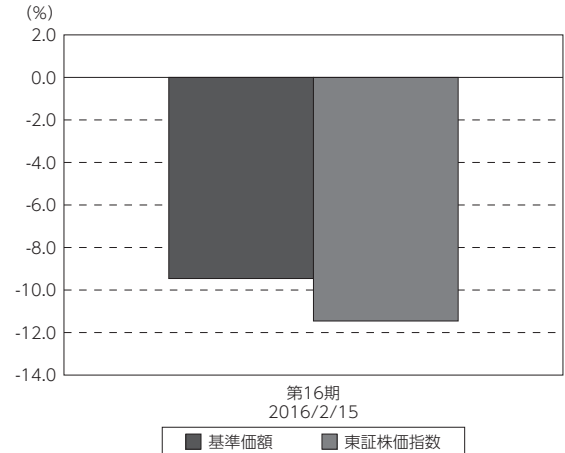
<プラス要因>

- ・ P B RおよびP E Rからみて割安な銘柄の組入比率をベンチマークに対して高めにしていました。これらの銘柄が、2015年4月上旬から6月上旬にかけてベンチマークに対して堅調に推移しました。
- ・ 「伊藤忠商事」、「日本電信電話」の組入比率をベンチマークに対して高めにしていたことや、「ソフトバンクグループ」の組入比率をベンチマークに対して低めにしていたことが、ファンドのベンチマーク対比の収益率にプラスに寄与しました。

<マイナス要因>

- ・ P B Rからみて割安な銘柄の組入比率をベンチマークに対して高めにしていました。これらの銘柄が、2015年6月上旬から7月下旬にかけてベンチマークに対して軟調に推移しました。
- ・ P E Rからみて割安な銘柄の組入比率をベンチマークに対して高めにしていました。これらの銘柄が、2015年11月上旬から期末にかけてベンチマークに対して軟調に推移しました。
- ・ 「日立製作所」、「日本郵船」の組入比率をベンチマークに対して高めにしていたことや、「小野薬品工業」の組入比率をベンチマークに対して低めにしていたことが、ファンドのベンチマーク対比の収益率にマイナスに影響しました。
- ・ 信託報酬などの諸費用。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 東証株価指数は当ファンドのベンチマークです。

分配金

(2015年2月17日～2016年2月15日)

分配金は、基準価額水準や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第16期
	2015年2月17日～ 2016年2月15日
当期分配金	100
(対基準価額比率)	0.948%
当期の収益	92
当期の収益以外	7
翌期繰越分配対象額	3,594

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針**(当ファンド)**

引き続き、ファンドの基本方針に則り、原則として「日興クオンツ・アクティブ・ジャパン・マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないます。

(日興クオンツ・アクティブ・ジャパン・マザーファンド)

原則として「日興アセットマネジメント」独自の定量モデルを利用し、最適化モデルなどによりリスクコントロールを行ないながらポートフォリオを構築することで、超過収益の獲得をめざします。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

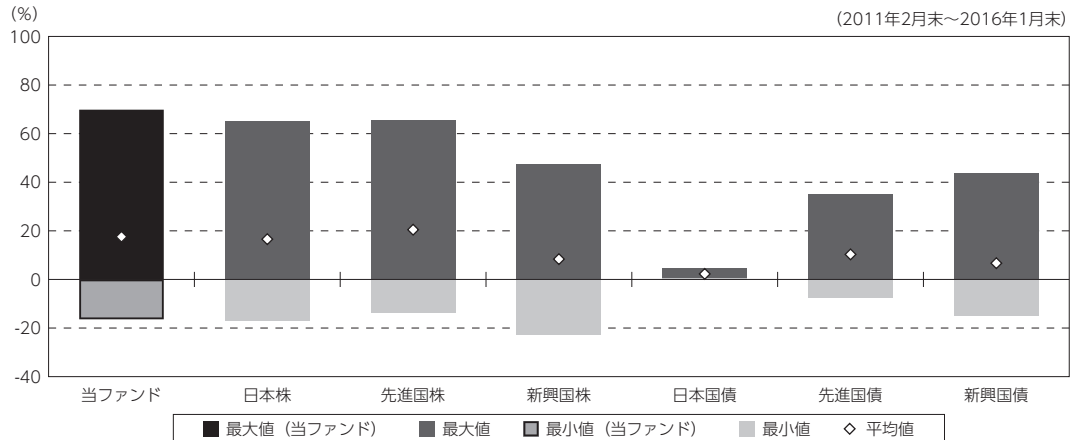
2015年2月17日から2016年2月15日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2000年2月18日から原則無期限です。	
運用方針	主として「日興クオンツ・アクティブ・ジャパン・マザーファンド」受益証券に投資を行ない、東証株価指数の動きを上回る投資成果をめざします。	
主要投資対象	日興クオンツ・アクティブ・ジャパン	「日興クオンツ・アクティブ・ジャパン・マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	日興クオンツ・アクティブ・ジャパン・マザーファンド	わが国の金融商品取引所第一部上場株式を主要投資対象とします。
運用方法	主として、わが国の金融商品取引所第一部上場の株式に実質的な投資を行ない、東証株価指数の動きを上回る投資成果の獲得をめざして運用を行ないます。日興アセットマネジメントが独自に開発したクオンツモデルにより、ポートフォリオを構築します。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	69.9	65.0	65.7	47.4	4.5	34.9	43.7
最小値	△ 16.4	△ 17.0	△ 13.6	△ 22.8	0.4	△ 7.5	△ 15.0
平均値	17.6	16.6	20.5	8.4	2.3	10.3	6.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年2月から2016年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA- ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2016年2月15日現在)

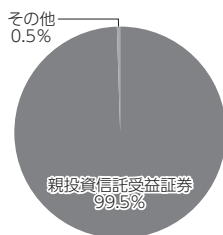
○組入上位ファンド

銘柄名	第16期末
日興クオンツ・アクティブ・ジャパン・マザーファンド	99.5%
組入銘柄数	1銘柄

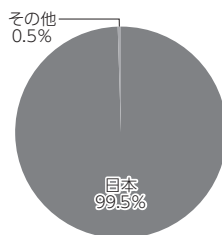
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

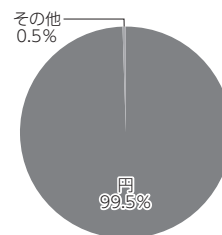
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

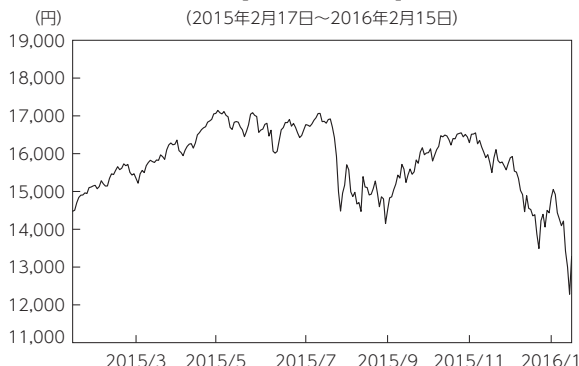
項目	第16期末
	2016年2月15日
純資産総額	3,325,025,281円
受益権総口数	3,182,359,817口
1万口当たり基準価額	10,448円

(注) 期中における追加設定元本額は21,890,046円、同解約元本額は371,610,957円です。

組入上位ファンドの概要

日興クオンツ・アクティブ・ジャパン・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2015年2月17日～2016年2月15日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式) (先物・オプション)	3 (2) (1)	% (0.018) (0.005)
合 計	3	0.018

期中の平均基準価額は、15,855円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2016年2月15日現在)

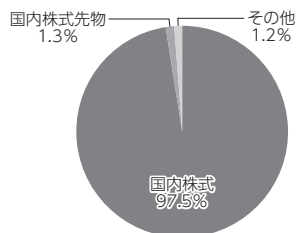
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 トヨタ自動車	輸送用機器	円	日本	4.4%
2 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	円	日本	2.7
3 日本電信電話	情報・通信業	円	日本	2.6
4 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	円	日本	2.3
5 本田技研工業	輸送用機器	円	日本	1.6
6 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	円	日本	1.6
7 日本たばこ産業	食料品	円	日本	1.5
8 日立製作所	電気機器	円	日本	1.5
9 KDDI	情報・通信業	円	日本	1.5
10 TOPIX先物	株式先物(買建)	円	日本	1.3
組入銘柄数		339銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

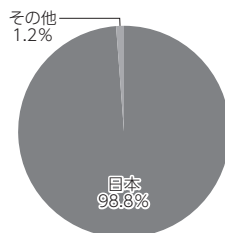
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

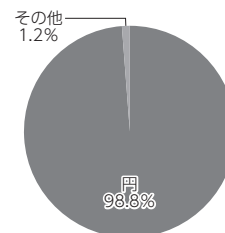
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数（TOPIX、配当込）

当指数は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。

○MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込、円ベース）

当指数は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

当指数は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA- ボンド・パフォーマンス・インデックス 国債

当指数は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

当指数は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）

当指数は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。